

一般質問は

質問方法

次の3通りから議員が選択します。

- ①一括質問方式(演壇で行い、3回まで可能)
- ②一問一答方式(発言席で行い、回数制限なし)
- ③1回目は演壇で一括質問、
2回目以降は発言席で一問一答方式



演壇で行う一般質問のようす
(一括質問方式)

スポーツ

市民プールのあり方は

問

大塚公園水泳プールは、施設の老朽化により休止している。本プールについて、今後の見通しを聞きたい。

答

本プールは、これまで十分に地域での役割を果たしてきたっており、防犯面や衛生面等にも課題があることから、新たな活用に向け、さまざまな観点から検討を進めてきた。今後、さらに関係所管と連携し、早急に結論を出せるよう、取り組んでいく。

問

プールの活用については、長期的な視点で総合政策的に検討すべきと考える。市内にある5カ所の市民プールのあり方について、市の考えは。

答

プールは、健康づくりやリハビリなど、さまざまな目的で利用されているものと認識している。一方、屋外プールは、利用期間が夏季に限定されていることから、施設の見直しなどが必要と考

えている。市民が利用しやすい環境づくりに向け、民間施設の活用を含め、施設のあり方を検討しなければならぬ時期が来ていると捉えている。

デフリンピック

開催に向けて

問

聴覚に障害のある方の国際スポーツ大会であるデフリンピックが、11月に東京で開催される。本大会を盛り上げるための取り組みは。

答

市役所本庁舎にて、パネル展示を行うほか、選手への応援メッセージを募集する。また、本大会で使用する装置の体験会を、富士森公園陸上競技場等で実施するほか、戸吹スポーツ公園で行うデフスケートボード体験会の開催を支援するなど、デフリンピック開催に向けた機運醸成に取り組んでいく。

学校教育

不登校対策への

取り組みは

問

子どもたちの誰もが安心して通いたくなるよう、行きやすい学校になるよう、尽力してもらいたい。策定から3年目となる不登校総合対策「つながるプラン」の今後の重点的な取り組みは。

答

不登校の児童・生徒が在籍校への復帰を目指す場として、適応指導教室を教育支援センターに再編し、より通いやすい環境を整えられるよう検討していく。また、すべての教員が専門的な知識を深め、不登校の未然防止に一層努めていく。

情報の受け手・発信者

としての子どもの教育を

問

インターネットは、誰もが世界に向けて情報等を発信できる一方で、受け手側は、情報の真偽等を判断する必要に迫られている。子どもたちが情報を安易に信じ込まないことや、判断する力を養うなどの教育が必要ではないか。

答

児童・生徒が得た情報を自ら判断し、安全に活用す



SNSなどのインターネットの利用方法をセーフティ教室で学習

ることや、危険を回避するための知識や能力を身に付けることが必要と考えている。そのため、警察署等と連携したセーフティ教室の実施等を通じて、ルールやマナーについて考える学習活動を行い、情報モラルの育成に努めていく。

問

子どもたちが大人になっていく中で、情報の発信者としての自覚を持ち、誤った情報を発信しないための教育にも注力すべきと考える。発信者としての自覚の育成について、市の考えは。

答

情報リテラシー※教育と併せ、道徳等での話し合い活動を通じて、相手の立場を考え、異なる意見を尊重する態度を養うことを重視している。これらを通じて、SNS等の発信者としての責任や、情報発信が社会に与える影響を自覚し、社会を主体的に生き抜く力を育んでいく。

※インターネット等から必要な情報を取捨選択し、その情報を十分使いこなす能力。「リテラシー」は読み書き能力の意味